

<陳述書（抜粋）>

高校卒業した後は進学し、現在は大学四年生です。大学では商業分野を学びつつ、周りの友人たちには家庭連合の二世であることを話しています。話した時は「素敵な教えだね」と言ってもらい、教会のことを気楽に話せるぐらいの関係性でした。

しかし、解散命令という一審決定の報道が世間に伝えられ、私は心が締め付けられるような思いでした。今までずっと仲良くしており、教会に行っていることを打ち明けていた友人は、報道の内容を言葉のままに受け取り、「あんまり変なことに首を突っ込まないほうが良いよ、心配。」と言うようになりました。その言葉を聞いた時、私はあまりにもショックでした。事件以前は、その友人自身から悩みを打ち明けられ、教会の教えを分かりやすく伝えたことで問題解決できたこともありました。教会を全面的に受け入れてくれていた友人に、突然、自分の信じている信仰は「変なこと」とされてしまい、今まで自分が信じてきたものが否定され、私の人生までも否定されたような悲しい気持ちになりました。

他にも、同じように、大学や学校の授業で何度も統一教会の批判を聞いて、苦しかったという二世が多くいました。ある社会学部の友達は、統一教会の悪質さについてレポートにまとめて提出するという課題が出されました。統一教会が悪いという前提でなければ評価してもらえないため、どうやって書くべきか悩み苦しみ、結局心が病んでしまい大学を退学せざるを得なくなったようです。彼女は、大学という学問を学ぶ場所すらも嫌いになってしまったと話していました。

また、法学部の友人は、「授業の余談として、教授から統一教会に対する一方的な批判が繰り返された。憲法で信教の自由を保障されているのに、将来法律家を目指す学生たちへの教育として不適切だ。」とショックを受けていました。学校教育の場では、そこに信者本人がいる可能性を考えず、権威ある立場からの差別発言が繰り返されています。そのような体験は私たち学生にとって、あまりにも精神的なショックが大きく、登校できなくなったり精神を病んでしまったりするケースが多数起きています。悲しませたくないで両親にも打ち明けられず、一人で悩みを抱えてきたという二世の友人の声を、私はこの期間何度も耳にしました。

私の人生は、教会によって始まり、教会の中で生かされてきました。きっと教会に通っていなければ出会うことがなかったであろう、家族同然の存在である教会員たち。幼い頃から礼拝に行くとおじいちゃんおばあちゃんのように「よく来たね」「今日も元気な姿を見られて嬉しいよ」と笑顔で迎えてくれる壮年やご婦人の方々。いつも関心を持って色んな話を聞いてくれ、教えてくれる同世代の二世たち。教会の祝福結婚を受けて幸せな姿を見せてくれる先輩二世の方々。大きな一つの家族のようなこの教会によって私は幸せな人生を生きることができています。このコミュニティ、私たちの心の居場所が無くなってしまうことは生きる価値を失ってしまうことと同じです。私は、報道をただ鵜呑みにしてしまうのではなく、この情報が本当に正しいのか、しっかり自分の目で見て判断して欲しいです。